

論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3142 号	氏名	三井 清美
論文審査担当者	主査 中村 清吾 教授 副査 泉崎 雅彦 教授 副査 砂川 正隆 教授		
<p>論文題名 : Predictors of resignation and sick leave after cancer diagnosis among Japanese breast cancer survivors: a cross-sectional study (日本人乳がん患者の癌診断後の離職と病休の予測因子の検討 : 横断研究)</p> <p>掲載雑誌名 : BMC Public Health 21: 138, 2021年 掲載</p> <p>(論文審査の要旨)</p> <p>乳がんは、日本人女性のがん罹患率の第 1 位であり、罹患率は年々増加している。20代から 60 代の就労世代に多いことが特徴であり、働く女性が増加するとともに仕事をしながら乳がんの治療のために通院している女性が増加している。がん治療と就労の両立支援の重要性が高まっているが、これまでに、乳がん患者の離職と病休取得の予測因子を検討した研究は少ない。</p> <p>申請者らは、日本人乳がん患者の癌診断後の離職の予測因子と就労継続している人の病休の予測因子について検討した。疾病パネル会社に登録している乳がん患者に Web 調査を行い、269 名を解析の対象とした。多変量ロジスティック回帰分析の結果、乳がんと診断後の離職の予測因子は「年齢が 47 歳未満」「学歴が短期大学、専門学校、高等学校」「病休を取得した」であり、就労継続者の病休取得の予測因子は「手術治療」であったと報告している。</p> <p>本論文は、日本人乳がん患者の離職の予測因子と就労継続している人の病休取得の予測因子を明らかにした日本で初めての研究であり、本学大学院学位論文 (博士) 審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載、500 字以内)